



コミュニティ台東

コミュニティはふれあいとうるおいのあるまちづくり

第57号 (令和3年2月)

発行:「コミュニティ台東」
編集委員会

事務局:区民課協働・多文化共生係
台東区東上野4-5-6
☎ (5246) 1126



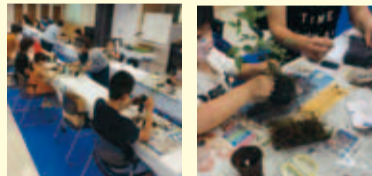
仲間の輪 コミュニティの コロナに負けるな!

※記事内容につきましては、令和2年夏秋にご執筆いただきました。

今回は編集委員である、松葉、谷中、竹町、東上野、浅草、大正、浅草橋、蔵前を中心に各コミュニティの紹介をしていただきました。次号では他の地区の編集委員の方が中心となりコミュニティを紹介していただく予定です。

夏のわくわくワークショップ

●泥遊び！苔玉を作って木を育てよう！



草花屋さんには苔玉の作り方をご指導いただき、土と苔と木の愛おしさを教わりました。

●漢字の成り立ちや歴史を探る旅



書家の先生には、篆書、草書、行書、楷書など六書体を書く体験を通じて漢字の成り立ちを探る楽しさを教わりました。

●楽しく算数♪そろこくばんを作ろう！

木工仕器作家さんからは、黒板とそろばんが合わさった可愛い“そろこくばん”作りを教わりました。



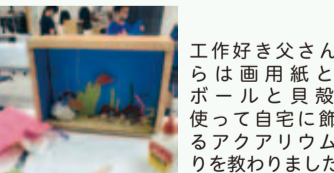
とても楽しかったよ！

●はじめてのロボットプログラミング



昨今、STEM教育の重要性が話題になる中、「早い時期から子供にICTに触れさせてあげたい」という親御さんの申し出により、ロボットプログラミング体験が実施されました。

●画用紙を使ってお気に入りのアクアリウムを作ろう！



工作好き父さんからは画用紙と段ボールと貝殻を使って自宅に飾れるアクアリウム作りを教わりました。

お家を海の中に

谷中コミュニティ委員会では、今年4月の総会も書面決議となり、毎年5月に開催している谷中コミュニティ祭りも中止を余儀なくされました。6月に入りようやく開催された委員会でも「学校行事も盆踊りや諏方神社の祭礼もない上、東京を出ることもままならない谷中の方々に何か出来ることはないか？」と委員それぞれ知恵を出し合い、「夏のわくわくワークショップ」と題し、お盆期間中に、谷中で子育て中のママ・パパを講師に迎えて少数での事前予約制の講習会を開催する事にしました。

どこまで新型コロナウイルス感染症対策を講ずれば参加してもらえるのか・・・関係各所とも協議しながら入念に準備しました。チラシやポスターにQRコードを付け、スムーズに予約していただけるように工夫して募集をかけたところ、募集初日からどのワークショップも希望が殺到し、急遽定員を増員した回もありました。コロナ禍でも谷中の地域の方々は、学びや体験の機会を欲しているのだなと痛感しました。今回は谷中地区の幼稚園小中学校の夏休み期間中でもあったため、親子で参加される方が多かったのですが、秋以降は、大人向けのワークショップ等も随時企画し、コロナ禍であろうとなかろうとコミュニティパワーで学びを、そして楽しみを提供し、絆を構築していきたいと思っております。

子どもみらい部 部長 橘光

谷中コミュニティパワーの発揮を！



だからできるコロナ禍の活動!! 知恵を出し合って頑張ろう!!

竹町地区
コミュニティ委員会

●学童サークル紹介

竹町地区コミュニティ委員会には現在、学童中心のスポーツサークルがいくつかあります。少年軟式野球、空手道、バレーボール、ビーチボール、卓球等の各サークルが学校の施設を利用し、活動しています。

今回は、平成小学校等を中心に活動している野球チーム「LCジュニア」の活動内容と部員募集を併せ紹介します。

「LCジュニア」は現在小学1年生から6年生が所属し、部員数28名で、上級チーム・教育チームの2チーム編成にて活動しています。また、活動地域は平成小学校、忍岡小学校、黒門小学



連合運動会 リバーサイドスポーツセンターにて

校の広範囲に及び、その地区の子供達が頑張つて活動しています。
チームのモットーである「礼儀・挨拶・みんな仲良く」を、野球を通して指導をしています。

チーム名の由来は、14年前に平成小学校の「台東レオネ」と忍岡小学校の「コンドルズ」が合併したことから、互いのチームの頭文字をとって「LCジュニア」と名付けられ、大人のスタッフも一緒に活動しています。

練習は土・日・祝日を中心に平成小学校の校庭等を使い、子供達の野球能力向上に励んでいます。女子の選手も数多く卒団し、OGとして練習に参加し、指導もしています。中には、女子プロ野球選手を目指しているOGもいますよ！

2020年東京オリンピックを楽しみに頑張つてきた子供達ですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今年は3月〜6月と過去に経験したことがないような、活動をしない、できない時期を迎え大変残念でした。

チームは台東区軟式少年野球連盟に加盟して非常に歴史の長い学童チームです。昨今、学童数の減少により廃部や合併等のチームが増えていますが、「LCジュニア」は多方面より選手、子供達の入部を歓迎しています。是非、練習を見学して親子共々「LCジュニア」に参加してみませんか?! きっと楽しいですよ！

新型コロナウイルス感染症を避けるため、また、三密対策にも注意を払い、「ガマン」を感じながらも、子供達の元

気な顔が見られるように、新型コロナウイルス対策をしっかりとして他のスポーツサークル(空手道・バレーボール・サッカー・卓球等)も活動再開を始められています。新型コロナウイルスに負けない活動を早く取り戻し、地域コミュニティの活性化を目指しましょう。

LCジュニア代表 左治木 利明



小学校にて練習



石浜小地区

コミュニティ委員会

石浜小地区コミュニティ委員会は石浜小学校通学区域にある9町会(今戸二・今三・橋場一・橋場二・石浜一・石浜二・石浜三・清川・吉野)の下に平成4年3月に発足いたしました。

区内に17地区あるコミュニティ委員会の中では遅い発足でしたが、今では地域の委員会として受け止められています。

ここ10年間、当委員会は「地域と繋がる」事を考え活動してきました。

利用団体も30団体近くになり、コミュニティの在り方を理解していただけるようになりました。

毎年、10月の第3日曜日に「はまっ子まつり」が行われます。模擬店・ゲーム・大抽選会などを当委員会の指導の下、玉姫児童館・少年リーダー研修会にお力添えいただき、実施しています。

2月の第3日曜日には、午前中に「避難訓練」を町会の方々と共に行い、午後は当委員会の団体の希望者で「ビーチボール大会」を行っています。

これからも、小学校の先生方・地域町会・児童館などの方々と共に「コミュニティ委員会」として地域に根差す活動を行っていきたくと思っています。

運営委員長 小嶋 幸一



町会の方々と一緒に避難訓練



ビーチボール大会で多くの人と交流しました



昨年度の「はまっ子まつり」では多くの方が楽しみました





●台東文化バレエサークル

活動開始は50年程前、最初は地域の
みそぎ神社の集会場からスタートして、
旧西町小学校講堂、旧下谷小学校講堂
と場所を移し、現在は東上野区民館で
活動するようになりました。3歳から
15歳までの34名が、毎週土曜日の13時
からレッスンをしています。

日々のレッスンの成果を2、3年
に一度の発表会で披露しており、令和
2年は7月に生涯学習センターのミレ
ニウムホールで発表会を行う予定でし
た。しかし、新型コロナウイルス感染
拡大の影響で発表会前にレッスンをす



台東文化バレエサークル
平成30年発表会

ることができず、発表会を延期するこ
ととなりました。

現在は活動を再開し、「自宅での検

温」「レッスン前の手洗いや消毒の徹底」

「レッスン時はマスク着用」といった感

染症予防対策を行っております。生徒

達はきれいな衣裳で舞台上に立てること

を楽しみに、次の発表会に向けて一生

懸命レッスンに励んでいます。

バレエは普段使わない筋肉を無理な

く使い、正しく美しい姿勢が保たれて

いきます。またダンスの基本ともいえ

るクラシックバレエは、お子様の情操

教育や健康維持にもつながります。

ご興味のある方は是非見学にいらし

てください。

一條 知美

新たな小さな出来る事 から始めよう

令和2年、突然私達、そして世界の

日常生活が大きく変わりました。

1月に中華人民共和国湖北省武漢市

での新型コロナウイルス発生が伝わり、

2月には横浜港でダイヤモンド・プリ

ンセス号の乗船者の感染状況の報道が

ありました。その時までは、私は、新

型コロナウイルス感染症は他人事だと

思っていました。

しかし、3月になると東京でも感染

者数が多くなり、この頃より、私達の

日常生活に新型コロナウイルス感染症

の影響・危機を実感するようになりま

した。

外出を控えていたため、TV・ネット・

新聞を見聞きする機会が多くなり、日

本の出来事(学校休校・緊急事態宣言・

外出自粛・アベノマスク・特別給付金・

Go Toトラベル・令和2年7月豪

雨・五輪延期・政治の混乱等)も、世

界の出来事(自国中心主義・人種差別・

香港問題・新型コロナウイルス感染症

の世界拡大その他諸々)も私達には無

関係ではなく、現在・将来の生活全て

が直接・間接的に関わることであるこ

とを実感し、これらの諸問題にも関心

を持ち、意見を持つことが必要ではな

いかと考えるようになりました。

そこで立ち返り、このコロナ禍にお

いて今私たちに何が出来るか?

「コロナに感染しない、させない」を

念頭に、コミュニティとして今何をす

るのか、何が出来るか?を模索してい

きたいと思います。

運営委員長 北畠 啓行



レッスン風景



●田原卓球クラブ

田原小地区コミュニティ委員会は、
昭和61年7月小学校改築工事完成と
同時に発足し、設立34周年を迎える
ことができました。現在20の団体が
スポーツはもちろん、ダンス・お囃
子等バラエティに富んだ活動をして
おります。

発足当時の『れっつ たわら』を
合言葉に、地域に根付いた愛される
コミュニティ作りに努力してまいり
ます。
今回は「田原卓球クラブ」を紹介
します。

会長 平野 光正

●田原卓球クラブ

私たちのクラブは高齢者を中心に、
日頃の運動不足解消と元気な毎日を目
指して、毎週月曜日に2時間の卓球の
練習を行い、クラブ会員の親睦を深め
ております。日頃の練習風景は誰とで
も声を掛け合い、シングルスでのラリー
を中心にしたウォーミングアップで体
をほぐします。その後、声を掛け合い、
ダブルスで3試合先勝するまで楽しみ、
終わればメンバーを組み替え、改めて
ダブルスに再挑戦します。当クラブで
は練習というより和気あいあいとした
雰囲気の中で過ごすことで親睦を深め
ています。

令和2年は、新型コロナウイルス感
染症拡大がなければ、オリンピックが
開催され、卓球競技では国際卓球連盟
の世界ランキング(令和2年4月)

女子総合第2位の伊藤美誠選手や男子
総合4位の張本智和選手等とのメダル
獲得が期待されていて、私たちクラブ
の中でも話題になっておりました。

令和2年1月に日本で最初に新型コ
ロナウイルス感染者が確認されてから、
ダイヤモンド・プリンセス号や屋形船
での感染者数は増えてきましたが、2
月中の当クラブ練習日につきましては
通常通りの練習が出来ました。

しかし、3月以降は、新型コロナウイルスの
感染拡大防止のため2月下
旬の最終月曜日の練習を最後に体育館
の使用ができなくなり、結局、「緊急事
態宣言」も発動され、残念ながら休部
状態が続きました。

新型コロナウイルスの感染状況が落
ち着き、2021年に延期されたオリ
ンピックが開催され、卓球競技のメダ
ルをかけて日本選手が活躍すること
を楽しみにしております。
がんばれ日本!!

竹内 一成



「田原卓球クラブ」
コミュニティ祭りでのビーチボール
大会に参加した時のコマ





●コロナ禍における コミュニティ活動

大正小地区コミュニティ委員会は、36の団体が所属しており、大正小学校と協力し、地域の核となるよう広く根を張った地域活動をしておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎年恒例の『春の文学歴史散歩』を中止し、3月の定例会を入谷区民館で行って以来、会合を開くことは行っておりません。

また、5月の総会は書面で議決し、例年9月に行っている多くの方々とゲームを通して楽しく交流を深められるコミュニティ祭りも中止にいたしました。

新型コロナウイルス感染を防ぐ『新しい日常』のもと、コミュニティ活動をするのはとても難しいことだと思えます。ソーシャルディスタンスを維持しながら、「明るく豊かなふれあいというおいのあるまちづくり」が主旨のコミュニティ活動を両立するのは、非常に困難です。

8月の時点でまだ活動拠点となる小学校の施設は開放されておらず、コミュニティ活動は再開できておりませんが、数ヶ月後、数年後には新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の準備期間を経て必ず再開されるはず。国の指針、都の要請、区のガイドラインなどが発表され、それらを守って活動することになるでしょう。

しかしながら、「ガイドラインを守っているから」とか「これだけやれば感染しても言い訳できる」とか、そんな気持ちで活動するのは危険だと思えます。感染しないため、また感染を拡大させないために、「区のガイドラインではこうだが、我々のサークルでは更に対策を行う」などの「絶対に感染しない、感染を広げない」という強い意志が重要です。それにはサークルの代表者の強い責任感を持った意志・行動・リーダーシップが必要になると思います。

現在、区のガイドラインでは『咳エチケットの徹底、マスク着用及びマイタオルを持参する事』と、利用者に求める感染拡大防止のための措置として挙げられておりますが、今後、『スポーツ時には熱中症を避けるためにマスクはしなくてよい』となるかも知れません。そうした際には、サークル内よく話し合い、人と人との距離を考え、必要であればマスク着用を必須にし、

休憩時間を増やし、手で触れる物には消毒をこまめにするなど、個々で決まり事を作る必要があると思えます。サークルの代表者には強いリーダーシップを発揮してもらいたいと思えます。日中には児童や教職員が使う学校に我々施設利用者が絶対に新型コロナウイルスを持ち込んではいけません。多くの方々に迷惑をかけることになりません。

お年寄りや基礎疾患をお持ちの方やその同居者の方々と、若者としては、新型コロナウイルスに対する警戒心になり差があると、個人的には感じます。是非慎重な行動をお願いしたいと思います。

運営委員長 丸地 伝三



昨年度の
コミュニティ祭り



多くの子供たちが
楽しんでくれました



昨年度の
文学歴史散歩



金曾木小地区コミュニティ委員会は、今年で創立117年目を迎えた根岸四丁目にある金曾木小学校を拠点として活動しています。平成28年度で創設30周年を迎え、徳茂会長を中心として、11名の運営委員が実務を支え、16のサークルの皆様とともに、当委員会としての行事を開催・運営しています。

4月の総会から始まり、コミュニティ祭り、バスハイク、新年会、草津温泉&スキーツアーと老若男女に楽しんで頂ける行事を開催しています。コミュニティ祭りは、金曾木小PTAバザーと共催して行っています。委員会独自のイベントを企画し、大勢の来場者を楽しんでもらっています。バスハイクは、関東近県の観光スポットや名所めぐり、バーベキューなど、開催の度に内容を変えて行っており、未就学児からご年配の方まで、様々な世代の方々の参加を頂いています。草津温泉&スキーツアーでは、現地で温泉派とスキー派に分かれて活動し、それぞれの楽しみ方で過ごします。



平成30年度の草津温泉&スキーツアー

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々なイベントが中止を余儀なくされましたが、委員会活動も例外ではありません。

新しいスタイルでの活動を実践し、皆様の笑顔とともに活動が再開できるよう、区内各地区のコミュニティ委員会と知恵を出し合いながら前へ進んで行きたいと考えています。これまで委員会活動に携わる機会がなかった皆様にも、新たな委員会活動の創造に参加して頂けたらと思います。

運営委員長 後閑 正典



令和元年度のコミュニティ祭り 大勢の参加者が楽しんでくれました。



松葉小地区

コミュニティ委員会

新型コロナウイルスの感染症拡大には、収束の兆しが見えませんが、

現在、コロナと共存する『ウィズコロナ』の社会で新たな生き方が求められておりますが、戸惑いや混乱も目立ち、暮らしや仕事、人間関係などが変化し、世の中にギスギスした雰囲気広がっています。このような中、感染予防優先か自由や人権を優先するのかという二項対立が生まれました。

『自粛警察』や感染した人を非難したり、偏見、差別といった『コロナいじめ』などの行動も生まれました。

コロナ禍の中でも、相手の立場に立って考えることが大切であり、状況に合わせて考えや行動、生活を変えていく柔軟性や共感が求められる世の中になってきているかと思えます。

新型コロナウイルス感染症が拡大しはじめてから、現在まで6か月程『委員会活動』はできておりません。行政でも活動再開に向け、準備を進めていると聞いておりますが、この夏の情勢や、これから秋冬になることを考えると、ワクチンや治療薬が確立されなければ再開は難しいのではないかと考えられます。

偶然、町でお会いしたコミュニティメンバーの方とお話した時、自分が感染しない様に、また、他人に感染させない様に、「3密を避け」「マスクを着け、手洗いをする」という対策をしっかりとしていくことを聞きました。普段から意識しているとは、『素晴らしい!』と思い、コミュニティ活動が再開した際は、感染対策をしっかりとして活動をしていこうと考えております。今までは『あたりまえ』の様に、コミュニティ活動ができ、サークルのメンバーと集まって話もでき、飲み会もできていたのに・・・『あたりまえ』の生活に早く戻りたいものです。

運営委員長 高橋 亨



大勢の参加者がコミュニティ大運動会を通じて交流し、楽しい一日を過ごします

●演歌体操クラブ

早いもので当委員会に入会させていただいてから30年余りになります。しかし、この長い活動期間の中で、今想像もしていなかった様な困難な状況になっています。

今年の初め頃は、まさかこんな状況になるとは思っておりませんでした。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、3月の一斉休校、外出等の自粛要請、そしてその後の緊急事態宣言の発令。そんな状況ですので、もちろん委員会活動もできなくなりまして。3月28日には全部員出席の食事を予定し、大変楽しみにしていたのですが、これも残念ながら中止になりました。

私達の生活はすっかり変わってしまいました。自粛期間も長くなり、不安や恐怖からストレスの多い日々が続いていきます。外出も思うようにできません。今までは週に1回、普通の事のように通っていた演歌体操ですが、仲間たちと顔を合わせ、体を動かしておしゃべりをするこの時間が、運動不足解消だけでなく、どれほど気分転換にもなっていたかを感じています。

まだこの状況がいつまで続くのかわかりませんが、活動再開の目は立っていません。今はただ1日も早く、安心してみんなで演歌体操が出来るようになる事を願っております。

「演歌体操」とは理学療法士の先生発案の、演歌に合わせて行う体操です。有酸素運動を取り入れたゆとりとしたものです。日頃、運動不足になりがちな私達ですが、少しでも元気に生活し続けられる様にと頑張っています。

毎年11月に行われる松葉小地区コミュニティ大運動会ではプログラムの最後に子供達や地域の方々と一緒に体操をします。これは毎回幸せを感じる楽しみな行事です。

現在、会員は17名。明るく、楽しいクラブです。「演歌体操」はどなたでも出来る体操ですので、ぜひお気軽にお声がけください。お待ちしております。

柗瀬 まき子

場所…松葉小学校 体育館
日時…火曜日
午後7時半～8時半



大運動会参加者全員で行う演歌体操



演歌体操クラブのメンバー



東泉小地区

コミュニティ委員会

東泉小地区コミュニティ委員会は新年会、総会、コミュニティ祭り、コミュニティ交流大会等の行事について学校の年間予定に基づき、運営委員会でいろいろ話をして予定を立てております。

特に、コミュニティ祭りの「東泉まつり」は総会が終わってほっとした後から、今年度はどのように進めていくか、PTAの方々を中心に話を伺い、子供達が喜ぶゲームや模擬店などのお店が同じものにならない様に話し合っ決めていきます。

当委員会で企画している産直野菜販売は毎年大盛況で、地域の方々も楽しみにしており、欠かせないイベントとなっております。

この野菜販売は親子2代で20年以上続いている八百屋さんをお願いしております。また、この八百屋さんを通じて、紹介していただいた農家の方にもお祭り当日に会場に採れたての野菜をもってきていただいております。本当に助かっています。

当委員会は「東泉まつり」を通じてPTAの方々とお話をしたり、各サークル同士の交流を深めたり、地域の方々にお手伝いをしていただいたりと、人と人とのつながりに感謝しながら、楽しい充実したイベントを行っております。

今年度はコロナ禍により残念ながら「東泉まつり」を中止とさせていただきますが、今後とも委員の皆様、PTAの皆様、地域の皆様と共に協力して地域の大きな力となるよう頑張っていきますのでよろしく願います。

運営委員長 加藤 晴美



産直野菜販売



工夫を凝らしたゲーム



「コロナ禍の中、佐藤新運営委員長に聞く！」

令和2年4月より運営委員長に就任された佐藤運営委員長に、浅草小地区コミュニティ委員会の魅力や地域とのつながり等を伺いました。

Q. 当委員会の設立・団体紹介をお願いします。

A. 当委員会は昭和59年8月9日に設立されました。設立時より掲げている「心と心のふれあい、うるおいのある町づくり」をモットーに、会長をはじめ9名の委員で運営しています。

Q. コロナ禍で、どのように運営・活動をしていますか？

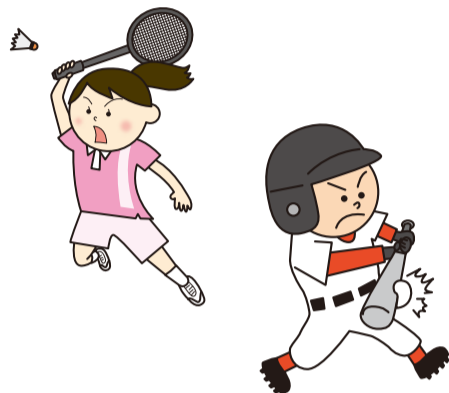
A. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、密閉・密集・密接を避けること、また、活動場所である学校施設は子供達が就学する場でもあることを委員会のサークル団体が理解し、全サークル活動を自粛しています。

運営活動の状況につきましては、サークル活動を通じての人と人の絆や各サークル間の交流を図るコミュニティスポーツ大会、浅草小学校校長先生・PTA会長・副校長先生をお招きしてのコミュニティ懇親会も、例年行っておりますが、現状の中では開催が難しいのではと危惧しております。

まだまだ出口は見えてきませんが、一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、以前の様に充実した笑顔の絶えない委員会活動が再開できる日を心待ちに願っております。



コミュニティ懇親会 (平成31年2月) にて。皆さん素敵な笑顔です。



Q. コミュニティと地域のつながりを教えていただけますか？

A. 当委員会の特徴として、地域行事との深い関わりがあります。三社祭では今年の実施方法をかえての斎行となったため、残念ながら中止となってしまいました。お囃子のサークルが日頃の練習の成果を発揮します。また、各町青年部の企画運営による三町連合納涼盆踊り大会では子供達をはじめ、地域の方々に楽しんで頂けるように趣向を凝らしたゲーム・かき氷などの模擬店が設営されますが、当委員会は協賛及び金龍太鼓のお披露目や模擬店での活動に参加をしています。

Q. これからのコミュニティ活動についてお話しいただけますか？

A. 今、私たちは未知のウイルス感染症により、新しい生活様式が求められ、活動自粛を余儀なくされています。本来ならばこのような錯綜した環境だからこそ、体を鍛えたり、共有できる習い事、日本の伝統文化等を学びながら、より多くの人と人が共有できるふれあいの場、そしてお互いがより深く交流できる場所を作ることにより、地域のネットワークを構築していくことが大切なことだと思えます。当委員会ではこれからもコミュニティ間の交流を深めるとともに、周辺地域の皆様との連携を図り、より充実した活動ができるよう心がけていきます。

佐藤運営委員長、お忙しい中、貴重なお話をいただきありがとうございます。新しい日常の中、全コミュニティ活動が再開し、皆様の笑顔に再開できる日を心待ちにしております。

八田 久美子



● コミュニティ祭り

当委員会のコミュニティ祭りは、スポーツ大会と健康ウォーキング大会を隔年で実施しています。

根岸小地区コミュニティ委員会では根岸小学校内の体育館・会議室・校庭をお借りし、スポーツ活動や文化活動など、様々な活動に取り組んでおります。また、「コミュニティ委員会」として色々な行事の実施や参加をしております。

● 三町会合同防災訓練

上根岸町会・中根岸町会・根岸二丁目町会の三町会が持ち回りで企画・運営している防災訓練に「コミュニティ防災協力会」として参加させていただいております。

健康ウォーキング大会では台東区内及び台東区周辺の史跡や施設を散策します。上野公園の歴史や秘密をクイズ形式で学んだり、徳川ゆかりの地を訪ねたり、ウォーキング中に見た風景で俳句を詠んだり、毎年様々なテーマに沿ったコース設定をし、幅広い年代の参加者の皆様と交流しながら散策を楽しんでおります。

運営委員長 藤原 浩二



防災訓練風景



ビーチボール大会



健康ウォーキング大会



「いま私たちができること」

蔵前小地区コミュニティ委員会では、昨年新たに迎えた蔵前小学校新校舎でのコミュニティ祭りの教訓をもとに、新校舎の魅力を最大限に生かし、東京オリンピックという夢と希望に満ち溢れたスポーツの祭典の魅力を体験できる企画等、いかにして子供たちにかげがえない経験と思い出をプレゼントするかをずっと楽しみに計画・構想をして参りました。

しかし、今年は新型コロナウイルスという未曾有の事態に見舞われ、ありとあらゆるイベント、興行、外出が禁止や中止、延期となりました。

そして我々が楽しみにしていた東京オリンピックも翌年への延期の決断を余儀なくされました。

その中でも当委員会として何かできないか、このような時期だからこそできないものはないか試行錯誤し、ソーシャルディスタンスを考慮した企画として、蔵前小地区の8町会をめぐるスタンプラリーを実施いたしました。

スタート時間をずらし、スタンプ設置場所も8町会に分けることで、密を避けながら親子での少人数団体で各町会を巡ります。子供達はゲームやレクリエーション等、各町会独自の催し物を楽しみ、お土産をもらいながら蔵前小地区を探検していました。



町会のご協力のおかげで地域の子供達も楽しめました。



受付でもコロナ対策をとり、消毒もしました。

例年は当委員会主体で実施しているコミュニティ祭りですが、今年は各町会をはじめ、各町会の関係者の皆様のご理解・ご協力のもと、委員一同丸となって取り込むことができ、新たな一面を見出すことのできる機会となりました。

まずはこのコロナ禍が一日でも早く解消するよう心より願っております。

和久田 太一



たくさん歩いて全ての町会のスタンプGET!



蔵前小OB・OGのボランティアの子も手伝いに来てくれました。



黒門小地区コミュニティ委員会は、平成3年3月に黒門小学校地区の住民が中心となり設立されました。

年1回のコミュニティ祭りと上野地区盆踊り大会のイベントがあり、地域の方々とも楽しく交流しております。コミュニティ祭りは当委員会に参加している団体だけではなく、近隣の町会の方々にも来ていただき、100名以上の参加の下ビーチボールやボーリングに汗を流します。今後も、地元根付いたコミュニティ委員会を目指したいと思います。

運営委員長 田嶋 章好



●アフターコロナにむけて

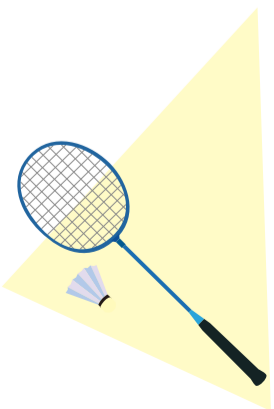
私が所属しているバドミントン部は創部からまだ日が浅く、活動場所を転々としながら細々と活動を続けていました。そんな中、当委員会の皆様に受け入れていただき、定期的に活動をさせていただくことができるようになりました。

仲間も増え、活動場所もでき、これから委員会活動に力を入れていきたいと思っていた矢先に、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい始めました。盆踊り大会などの楽しみにしていたイベントのほとんどが中止となり、部に

とつても、委員会にとつても厳しい状況が続いています。しかし、へこたれてはいられません。今できることは何か。今後、委員会活動が再開したときにいままです以上に活発に活動するにはどうすればよいかを私なりに考えてみました。

私は、その1つとして、メンバー同士が「互いを思いやる」ことが大切ではないかと思えます。もちろん、今現在思いやりがないというわけではありません(当委員会の雰囲気は本当にいいんです!新参者がそのように感じているので、長く所属されている方はより一層感じていると思います)。新型コロナウイルス感染症は人と人とのつながりも希薄にしています。人との触れ合いは制限され、繋がりも感じづらくなっている状況は、地域の繋がりを重視するコミュニティにとって危機的な状況ともいえると思えます。しかし、そのような状況でも、メンバー同士が互いを思いやり、助け合った経験は再開後の委員会活動で必ず活かせるはずです。共に新型コロナウイルス感染症という苦境を乗り越えた経験は、チーム間はもちろん、当委員会全体の繋がりを強固なものにするはずです。今はまだ思ったような活動はできませんが、来るべきその日に向けて思いやりの気持ちを持ち、再開の時を待ちたいと思います。

多田 拓司





コミュニティ祭り 育英太鼓

浅草橋地区コミュニティ委員会における最大の行事は、毎年11月初めに実施している「コミュニティ祭り」です。例年8月ごろから実行委員長を中心に、委員会で準備を開始しています。祭り当日は、台東育英小学校の生徒たちによる力強い育英太鼓（写真左）をオープニングに、地域の名産を販売する物産展、フリーマーケット、野菜販売を定番に実施しています。さらに、令和元年度は昔懐かし縁日（写真下）を企画し、子供から大人まで大好評でした！

また、地域の大きなイベントである、浅草橋紅白マロニエまつりや、柳橋納涼盆踊り大会、柳北おどりなどのお手伝いも行っています。

当委員会には運動系17サークル、文化系4サークルがあり、台東育英小学校などの施設をお借りして、日ごろからスポーツや音楽などを楽しんでいます。



コミュニティ祭り 昔懐かし縁日

しかし、令和2年春先からの新型コロナウイルス感染症拡大により、学校施設の開放が休止され、各サークルの一連の活動が中止を余儀なくされました。サークルメンバーにとっては、大変シロッキングな出来事です。感染拡大が収束に向かうかと思えば再拡大と、先が見えない状況が続いています。

このコロナ禍で、活動は再開したいが、新型コロナウイルス感染も怖いといった複雑な局面に立たされている方々は大変多いのではないかと思います。

そこで、当委員会において、許容される範囲内で少しずつ運営・活動を再開した具体例をご紹介します。

両サークルとも施設の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとった利用方法に沿って活動し、練習後の飲食は最低限にする、飲み会等はオンラインを活用するなど工夫を凝らして少しずつ活動を再開しています。少しでも皆様の参考となれば幸いです。

●テニスサークルの例

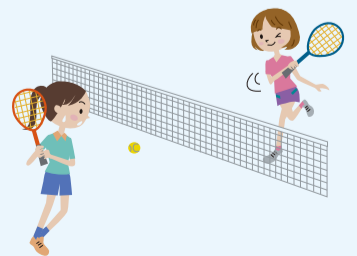
テニスの場合、プレー中よりも、プレー前後の更衣室における着替え、あるいはプレー後の飲食の方が、感染の危険度は高いかもしれません。

また、定期的にテニスコートが確保できるといふコミュニティにおける活動が、いかに恵まれていたのかを、まざまざと痛感するとともに、改めて感謝する次第ですが、コロナ禍の中で使用可能なテニスコートが限られているため、コートを確認することは難しい状況です。幸運にもコート使用の抽選などに当たった際には以下のことに留意しました。

- ・メンバーの数を限定して、多人数とならないように配慮し、1コート6名程度にする。
- ・テニスコート往復時のマスク着用、プレー時は熱中症対策もあり任意。
- ・手指消毒はもちろん、特に靴底の消毒を実施。テニスボールはプレー中バウンドし、プレーヤーはそれを必ず手で持つので、靴底についたウイルスがうつる可能性がある。靴底の消毒は極めて重要。



靴底消毒



●合唱サークルの例

合唱は、いわゆる「三密」や飛沫感染の危険を起す条件を満たす活動です。室内で、大勢が集まり、大きな声で歌うわけですから、コロナ禍では大変危険でしょう。

しかし、そんな中でも、歌いたい、練習をしたいという思いは強く、何とか練習を再開し始めています。

- (1) 貸出許容されている公的な施設を利用、感染状況に応じて中止判断もする。
- (2) 歌うときも含め、常時マスクを着用。
- (3) 練習中は30分に1回程度5〜10分換気。
- (4) 練習後は、使用施設、用具のアルコール消毒清掃の徹底。



- ・集まって行う練習は現段階では極力実施しない。
- ・リモートツールを利用する練習方法が大いに活用する。通信タイムラグがあるが、工夫次第では実際に集まって練習するよりも中身濃く進められる。
- ・集まって練習を実施する場合は下記の細心の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、本人並びに家族で感染リスクが高い方は、十分注意して参加可否判断をする。

あきらめない気持ち、熱意があれば、何かしらの方法が見つかるはずですが、委員会のメンバーにとっては大変困難な状況が続いていますが、「夜明けの来ない夜は無い」と信じ、この難局を乗り切りましょう。

齋藤 芳則



上野小地区コミュニティ委員会には現在35団体が所属しています。今年はコロナ禍のなかで、活動が難しい状況ですが、例年は毎月第4水曜日に運営委員会を開催し、運営の打ち合わせや会員相互の連絡を行って活動しております。

コミュニティ全体で取り組む地域に向けた活動としては、夏の「盆踊り大会」や、社会教育登録団体が開催する「サークルフェスタ」と社会教育センターで同時開催する秋の「コミュニティ祭り」があります。また、「新年会」や「総会」など委員会内部の活動もあります。コロナが収束したら、新しい日常の中で今以上に地域の皆様と共に協力をして活動を続けたいと思っています。

運営委員長 中田 秀弘

●再開を願って

私たち上野バドミントンクラブは上野小学校体育館にて活動しています。若者からシルバー世代と幅広い年齢層の方々と共に、初心者から上級者までレベルに関係なく楽しく元気に練習に励んでいます。また、練習日程や大会予定を共有するため、ホームページを開設し、随時更新しています。

長い期間、続けていたいただいた諸先輩方により、ありがたくも昨年50周年を迎えることができました。古くから交流がある駒形バドミントンクラブとの交流試合、交流会ではたいへん盛り上がりしました。



しかし、今年に入り、コロナ禍の影響で体育館が使用禁止になり、活動停止の状態となりました。今まで、普通にバドミントンを楽しんでいた事ができなくなりました。今、普通にバドミントンをしたい。現在、体育館の使用が可能になった際の、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を検討しており、

- ・ クラブ員のみ参加
- ・ 入出時には手のアルコール消毒、体調確認
- ・ ネット、ボールの設置は決められた者のみが行う
- ・ コート以外での待機中にはマスクをしてソーシャルディスタンスを保つ

など、活動の再開時には感染症対策をしっかりと行なって参ります。1日も早くみんなで楽しいバドミントンが再開できるように願っています。

中塩 恭子



富士小地区コミュニティ委員会の活動地域にある富士小学校は令和2年に創立120周年、富士幼稚園は創立70周年をむかえました。明治、大正、昭和、平成、令和と5つの時代にわたり歴史を積み上げてきました。おめでとうございます。

そして、当委員会は、平成元年に設立しました。令和になり、2つ目の時代に入ったばかりの新米です。

設立時は10サークルが所属し、32年たった現在は17サークルが所属しております。バドミントン、バレーボール、ビーチボール、バスケット、ジュニアバレーボール、軟式テニス、空手、少年野球、茶道、華道、俳画、漢字書道、かな書道と多種多様です。定例会を毎月22日におこなっており、6月の定例会には総会も兼ねて開催しています。

行事は毎年11月にコミュニティ祭りを実施しており、ビーチボール対抗戦・作品展と日帰りバスハイクを隔年で行っております。ビーチボール対抗戦ではスポーツの秋を感じ、文化系サークルによる作品展は芸術の秋を感じます。平成30年は20名ほどの参加者がありました。

また、令和元年のバスハイクは、横浜三溪園見学、中華街で買い物と昼食、キリンビール工場見学、カップヌードルミュージアムではお好みカップヌードルを作ったりと、盛り沢山で楽しい一日でした。

地域行事としては、毎年5月から6月にかけて浅草神社、今戸神社、熱田神社の祭礼があり、8月には近隣7町会連合の盆踊り大会が富士公園でおこなわれ、当委員でも協力しております。

いろいろと紹介いたしました。ご承知の通りこのコロナ禍で、コミュニティの活動はもちろん全て休止！お祭りも盆踊りも中止となってしまいました。今思えば、前号の「コミュニティ台東」では、来るべき東京オリンピックの話題でいっぱい希望ある号でしたが、そのオリンピックも延期となってしまいました。令和2年は寂しい1年となってしまいました。

令和3年は、コロナ禍が収束して、すべての行事が元のように出来ることと、これまで以上にコミュニティ活動が良い方向に発展することを祈ってやみません。

運営委員会 久代 喜志治



今回は運営委員長について、少しお話をします。

前運営委員長が急死し、委員長の選出に困っている時に快く引き受けてくれたのが現・田中清幸運営委員長です。平成31年の3月就任なので、比較的新しい運営委員長ではないかと思われる。

田中運営委員長は芝崎クラブの代表であり、芝崎町中町の青年部長を経て、現在は町会の副会長を務めています。

芝崎クラブは硬式テニスの団体として当委員会に所属しているだけではありません。過去「コミュニティ台東」にて、『浅草ビューホテルのある芝崎町中町の青年部と近隣の町会青年部を中心に組織されたクラブでした。このクラブ、三社祭礼や町会の夏季行事などに大活躍する青年たちの集団であり、町会の諸活動の力強い推進力となっている。』(コミュニティ台東38号より一部抜粋)と紹介されている通り、芝崎町中町会は浅草ビューホテルのある町会であり、もちろん田中運営委員長も三度の飯よりお祭りが大好きときています。

本人曰く、「二束の草鞋を履いてがんばる」とおっしゃっています。その言葉のとおり、運営委員会でも一番目立つ存在になっても頼りになります。

令和2年度は昨年度末からの、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校や地域の行事もそれぞれ中止となり、当委員会でも、今年度のコミュニティ祭りの中止、毎月の運営委員会が開けず、ほぼ活動停止状態になっていました。

しかし、コロナ禍で田中運営委員長の発案により運営委員内でLINEグループを作り、安否(?)確認や区役所からの情報の共有を図っており、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら少しずつ活動を再開し始めております。

運営委員会一同



コミュニティ委員会に入りませんか？

コミュニティづくりの主役は
地域のみなさんです！

コミュニティ委員会は、小学校の通学区を一つの単位として活動しており、現在台東区内に**17委員会**あります。活動は、主に以下の通りです。

こんな活動をしています！

- ☆コミュニティ祭りの開催
- ☆防災活動
- ☆活動拠点となる小学校付近の清掃
- ☆地域のイベント運営の協力
- ☆スポーツ・文化等のサークル活動



コミュニティ祭りの様子



サークル活動の成果を発表



普段使用している学校施設の清掃



防災意識を高める活動の様子

地域貢献をしたい！地域の人とつながりをつくりたい！
コミュニティ委員会にはそんな気持ちを持っている方が
たくさんいます。ぜひ、あなたも活動に参加してみませんか？

詳しい活動内容等は
こちらから！！



コミュニティ委員会やサークルに参加してみたい方は区民課コミュニティ委員会担当まで!! ☎03(5246)1126



第28回 台東区コミュニティ交流大会



第28回台東区コミュニティ交流大会を終えて

「第28回台東区コミュニティ交流大会（ビーチボール大会）」が令和2年1月12日（日曜日）に台東リバーサイドスポーツセンターにて開催されました。

各コミュニティ委員会から74チームの参加があり、総勢850名の皆様の協力によって本大会が盛り上がり、一大イベントとなりました。

開会式後、本交流大会長であります、服部征夫区長の始球式を皮切りに、各コートで熱戦が開始されました。

コート上の対戦チームや応援の皆様が、他地区の方々と交流する光景を多々お見受けし、大勢の方々にも楽しんで頂けたと感じております。

今回、台東区広報番組（ケーブルテレビ）の取材、放送においても区民の皆様に台東区コミュニティ交流大会の活動をお伝えできたかと思います。撮影スタッフの方々、一日中お疲れ様でした。

新年早々にも関わらず、各地区の選手、実行委員、スタッフ事務局及び、応援をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大で皆様におかれましては、自粛等にて不安な日々を過ごされているかと存じますが、次回も台東区コミュニティ交流大会が開催できますように心からお祈り申し上げます。

実行委員長 坂上 則子



優勝チーム代表の皆さん



実行委員・スタッフの皆さん

★伝言板

令和2年度より新しく会長・運営委員長に就任された方を紹介します。

【松葉】 会長 下田 隆
【浅草】 運営委員長 佐藤 雅昭

★編集後記

コロナ禍で、編集委員会もままならぬ中、事務局の多大な協力で、「コミュニティ台東」が発行できました。記憶に残る年でした。

高橋 亨（松葉）

今年のコミュニティ委員会ほど、結束と知恵と勇気を感じたことはありません。

子供を思う親の力をまざまざと感じ、老若男女問わず、コミュニティ活動を楽しみつつ、突き進む力を嬉しく感じました。この経験はこれからの活動をより豊かにしていくと信じています。

増山 睦子（谷中）

コロナウイルスに負けないコミュニティの仲間達を、特に元気な子供達の野球チームを紹介したく、活動状況・写真を通じ、記事にて取り上げました。明るい未来へ!!

左治木 利明（竹町）

集まっていた編集会議が出来ない中で、各自の作業となりましたが、事務局の方々のご指導で57号の発行が出来ました。ありがとうございました。

目羅 洋子（東上野）

コロナ禍の中、異例の情報紙作りとなりました。事務局の方には大変お世話になり、無事に発行することができ、ありがとうございました。

八田 久美子（浅草）

コロナの中、顔合わせする事もできず、色々大変でしたが、無事に発行することができました。ありがとうございました。

飯田 康子（大正）

コロナ禍の編集作業となり、何かと不便がありました。各位のご努力感謝申し上げます。

齋藤 芳則（浅草橋）

コロナの影響でコミュニティ祭りが開催できなかった議論になりましたが、各町会、近隣の皆様のご理解・協力のもと、無事開催できたこと、また、記事にできたことに感謝申し上げます。

和久田 太一（蔵前）

ご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマ等がございましたら、事務局までご連絡ください。